

## 巻 頭 言



### 想像力と創造力と

院長 秦 温信

残念ながら自分もそうなのであるが、最近想像力の低下が目立ってきているように思う。教育のありようとも密接な関係があるのであうが、大変困った問題である。

「想像力」(imagination ; imaginative power) とは、実際に見え(聞いたことの)ない物事について、多分こういうものだろうと頭の中で思い描ける力と定義されている。

“Knowledge is power.”(知識は力なり) という諺があるが、Albert Einstein は “Imagination is more important than knowledge”(想像は知識よりさらに重要である) という有名な言葉を残しており、いかにも「想像力」は思考の言動力ともなっている。

具体的には①文章を書く、本を読む ②発明する ③企画する ④何か物を作る……等様々な面で役割を演ずる。

一方、「創造力」(creative power ; creativity ; <独創性>originality ; inventiveness) とは、新しいものを、自分の考えで造り出せる力と定義されている。ここでいう「自分の考え」とは「想像力」に他ならない。

すなわち、どちらも発音としては「そうぞう」なのであるが、人間としての総合的な力は「想像力+創造力」と考えることができるのであり、これを絶えず念頭に置きながら鍛えることがますます重要となっている。

その理由として、薄(すすき)俊也氏は次のように述べている。

1. 急速に発展する情報化社会において、「想像力+創造力」は、生きていく上での糧になる。
2. 人生において、「想像力+創造力」は、充実感や満足感を与えてくれる。
3. 日常生活において、「想像力+創造力」は、臨機応変で機転に富んだ行動を可能にする。
4. 「想像力+創造力」を鍛えた人々が増えれば、社会全体がよりよい方向へ変化して行く。というのである。

以前に右脳(やわらかい脳: 非言語的、直感的)と左脳(かたい脳: 言語的、理知的)のことを書いたことがある(札幌通信 No. 353、平成9年1月)が、「想像力+創造力」を鍛える方法として右脳と左脳の能力(脳力)をそれぞれバランスよく伸ばし、かつ両脳の連携をよくすることが求められる。

記憶力に頼る教育の傾向が強くなっている中で、「想像力+創造力」の鍛錬がますます重要になってくるのである。とは、記憶力がどんどん低下してきている者の一人だから言うのではない。

※ 札幌社会保険総合病院医誌(札幌医科大学学術機関リポジトリ)より  
<https://sapmed.repo.nii.ac.jp/record/12167/files/n1342665618k1.pdf>

